

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

◆生徒の就労を通じた潤いのある社会的自立の実現をしっかりと支援する学校
◆生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、より適切で効果的な指導・支援をするために進化する学校
☆連携・発信 生徒の一人ひとりの卒業後をみすえ、地域、関係機関等との連携のもと、本校の実践と成果を広く社会に発信する。
☆選択・実現 社会の変化や企業ニーズ等をふまえつつ、生徒の自己選択の力を育成するなど、継続性を見すえた社会参加（就労）を実現する。
☆検証・改善 社会の変化や多様性に迅速に対応するため、柔軟で機動力を備えた職員集団となるよう継続的に組織体制を検証し、改善する。

2 中期的目標

1 教育活動の外部への発信と積極的な関係機関との連携・交流
(1) 本校の取組みを積極的に外部に発信し、社会全体に障がいのある生徒のチャレンジを支援するよう働きかける。
(2) 高等支援学校や高校とのスポーツ交流等をとおして、本校のもつセンター的機能を果たすとともに、共生推進教室設置校とのさらなる連携も促進する。
(3) 地域と本校の協同によるコミュニティ「たまがわランド」及び「たまがわフェスティバル」等を計画的に運営し、地域に愛される学校をめざす。
2 より適切で効果的なマッチングを基本とした進路指導体制の充実
(1) 生徒と企業の双方のニーズを適切で効果的なマッチングにより就労率・定着率を上げるとともに、実習先・雇用先の新規開拓につなげる。
(2) 確かな学力の育くむため、「主体的・対話的な深い学び」の実現をめざした授業改善に取り組み、授業力の更なる向上を図る。
(3) 自立活動の時間を充実させ、適切な支援により生徒一人ひとりの課題を引き出し、社会的自立に必要な力を養う体制を構築する。
3 今後の社会の変化に適切・迅速に対応できる、進取の機運に富んだ校内体制の確立
(1) 校内研修体制を更に充実させ、教職員間の意思疎通を図り、「チームたまがわ」として校務に取り組む機運を醸成する。
(2) 時宜を得たテーマを設定し、種々の委員会・プロジェクトチーム等で検討及び実施することで人材の育成を図る。
(3) 校務の効率化を図り、ワーク・ライフバランスを意識した教職員一人ひとりの働き方への意識改革を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育活動の外部への発信と関係機関との連携・交流	(1) 本校の取組みを外部に発信	(1) ア ホームページにおける発信力向上、広報誌 T - マガジンの継続発刊 イ 障がい者就業・生活支援センターやハローワーク等の関係外部機関との連携 ウ 全国関係機関からの視察・見学 エ 支援教育体験実習	(1) ア 校長ブログ更新（年間 100 回）、T - マガジン発刊 イ 各機関との懇談会開催 5 回程度 ウ 年間のべ 50 団体以上の見学 エ 受講者アンケート 肯定的評価 80%以上	
	(2) 他校との連携・交流・支援	(2) ア 文部科学省事業「交流及び共同学習推進」のモデル校としての計画的な実施及び運営 イ 高等支援 5 校間の連携 ウ 共生推進教室設置校との連携及び支援	(2) ア 参加生徒アンケート評価 4.0 以上 イ 校長間連絡会（3 回以上） ウ 共生設置校校長と定期的な情報共有	
	(3) 地域に根ざした学校教育活動	(3) ア 「たまがわランド」の取組みの継続と事業所の見学・視察の受け入れ日を重ね合わせるなどの計画的な運営 イ たまフェス文化の部の地域等への周知	(3) ア 来場者数平均 70 人以上（保育園児を含む） イ たまフェス文化の部、来場者数 1000 人以上	
2 より適切で効果的な進路指導体制の充実	(1) 就労率の維持及び定着率の向上	(1) ア 計画的なキャリア教育 イ 新規実習及び新規就労受入れ事業所開拓 ウ 卒業後のアフターフォロー体制の整備	(1) ア 今年度中に 3 年間を見通したキャリア教育計画の策定 イ 新規実習及び就労受入れ事業所 50 社以上 ウ 1 年後の離職者を 10%未満	
	(2) 確かな学力の育成	(2) ア 次期学習指導要領をふまえた授業の改善	(2) ア ・教員授業相互見学の充実 1 人 2 回以上 ・主体的で対話的な深い学びを基調とする「たまがわモデル授業」の構築	
	(3) 自立活動の充実	(3) ア 実施内容の共有化 イ 部活動に関して加入率の向上及び活動のさらなる活性化	(3) ア 自立活動の取組みに関する教職員研修を複数回実施 イ ・部活動加入率 85%以上 ・全国レベルの大会への出場	
3 進取の機運に富んだ校内体制の確立	(1) 校内研修の充実	(1) ア 次期学習指導要領をふまえた計画的・効果的な研修の実施	(1) ア 各種研修の受講者アンケート平均 4.0 以上	
	(2) 人材育成	(2) ア 各種委員会において時宜を得たテーマ設定の下での OJT の促進 イ 授業公開月間において研究授業の充実及び相互参観の徹底	(2) ア 学校教育自己診断の生徒用アンケート項目「学校へ行くのが楽しい」肯定的数値 85%以上 イ 授業アンケート数値の向上 対前年度比 10%以上	
	(3) ワークライフ・バランス	(3) ア 学年及び分掌において前年度立てたスクラップ&ビルド計画の着実な遂行	(3) ア 時間外勤務の 1 割縮減	